

第4回蒲郡市総合計画審議会 会議録

開催日時	令和2年10月20日（火）午後1時30分～午後3時30分まで																																																																																																		
開催場所	蒲郡市役所3階 303会議室																																																																																																		
出席者	<p><b>【蒲郡市総合計画審議会 委員】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>蒲郡市教育委員会</td> <td>教育委員</td> <td>渡辺 充江</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市農業委員会</td> <td>会長</td> <td>坂部 哲雄</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市総代連合会</td> <td>副会長</td> <td>石川 良一</td> </tr> <tr> <td>蒲郡商工会議所</td> <td>会頭</td> <td>小池 高弘</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市観光協会</td> <td>常務理事</td> <td>長谷川 恵一</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市漁業振興協議会</td> <td>会長</td> <td>小林 俊雄</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市農業協同組合</td> <td>理事</td> <td>大村 純代</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市小中学校PTA連絡協議会</td> <td>会長</td> <td>三浦 吉尊</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市保育園父母の会連絡協議会</td> <td></td> <td>伊藤 恵梨子</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市社会福祉協議会</td> <td>会長</td> <td>鶴飼 秀好</td> </tr> <tr> <td>がまごおり市民まちづくりセンター</td> <td>代表</td> <td>金子 哲三</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市国際交流協会多文化共生部会</td> <td></td> <td>三浦 嘉子</td> </tr> <tr> <td>ボランティア連絡協議会</td> <td>副会長</td> <td>石川 たづ子</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市文化協会</td> <td>副会長</td> <td>佐野 哲子</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市スポーツ協会</td> <td>副会長</td> <td>吉見 千津子</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市子ども会連絡協議会</td> <td>顧問</td> <td>小林 浩子</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市</td> <td>副市長</td> <td>井澤 勝明</td> </tr> <tr> <td>名古屋大学</td> <td>教授</td> <td>高野 雅夫</td> </tr> <tr> <td>愛知工科大学</td> <td>准教授</td> <td>小林 直美</td> </tr> </table> <p><b>【欠席】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>愛知大学</td> <td>教授</td> <td>鄭 智允</td> </tr> </table> <p><b>【説明者】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>建設部道路建設課</td> <td>課長</td> <td>名嶋洋二郎</td> </tr> <tr> <td>建設部土木港湾課</td> <td>次長兼課長</td> <td>永島 勝彦</td> </tr> <tr> <td>建設部建築住宅課</td> <td>課長</td> <td>孕石 勝也</td> </tr> <tr> <td>都市開発部都市計画課</td> <td>課長</td> <td>鷹巣 央佳</td> </tr> <tr> <td>都市開発部区画整理課</td> <td>次長兼課長</td> <td>平野 靖行</td> </tr> <tr> <td>総務部交通防犯課</td> <td>次長兼課長</td> <td>池田 高啓</td> </tr> <tr> <td>総務部防災課</td> <td>主幹</td> <td>西浦 淳子</td> </tr> <tr> <td>消防本部総務課</td> <td>課長</td> <td>市川 貴光</td> </tr> </table> <p><b>【事務局】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>企画政策課</td> <td>次長兼課長</td> <td>牧原 英治</td> </tr> <tr> <td>企画政策課</td> <td>係長</td> <td>板倉 一博</td> </tr> <tr> <td>企画政策課</td> <td>主事</td> <td>杉浦 太律</td> </tr> <tr> <td>企画政策課</td> <td>主事</td> <td>青木 佑紀</td> </tr> </table>			蒲郡市教育委員会	教育委員	渡辺 充江	蒲郡市農業委員会	会長	坂部 哲雄	蒲郡市総代連合会	副会長	石川 良一	蒲郡商工会議所	会頭	小池 高弘	蒲郡市観光協会	常務理事	長谷川 恵一	蒲郡市漁業振興協議会	会長	小林 俊雄	蒲郡市農業協同組合	理事	大村 純代	蒲郡市小中学校PTA連絡協議会	会長	三浦 吉尊	蒲郡市保育園父母の会連絡協議会		伊藤 恵梨子	蒲郡市社会福祉協議会	会長	鶴飼 秀好	がまごおり市民まちづくりセンター	代表	金子 哲三	蒲郡市国際交流協会多文化共生部会		三浦 嘉子	ボランティア連絡協議会	副会長	石川 たづ子	蒲郡市文化協会	副会長	佐野 哲子	蒲郡市スポーツ協会	副会長	吉見 千津子	蒲郡市子ども会連絡協議会	顧問	小林 浩子	蒲郡市	副市長	井澤 勝明	名古屋大学	教授	高野 雅夫	愛知工科大学	准教授	小林 直美	愛知大学	教授	鄭 智允	建設部道路建設課	課長	名嶋洋二郎	建設部土木港湾課	次長兼課長	永島 勝彦	建設部建築住宅課	課長	孕石 勝也	都市開発部都市計画課	課長	鷹巣 央佳	都市開発部区画整理課	次長兼課長	平野 靖行	総務部交通防犯課	次長兼課長	池田 高啓	総務部防災課	主幹	西浦 淳子	消防本部総務課	課長	市川 貴光	企画政策課	次長兼課長	牧原 英治	企画政策課	係長	板倉 一博	企画政策課	主事	杉浦 太律	企画政策課	主事	青木 佑紀
蒲郡市教育委員会	教育委員	渡辺 充江																																																																																																	
蒲郡市農業委員会	会長	坂部 哲雄																																																																																																	
蒲郡市総代連合会	副会長	石川 良一																																																																																																	
蒲郡商工会議所	会頭	小池 高弘																																																																																																	
蒲郡市観光協会	常務理事	長谷川 恵一																																																																																																	
蒲郡市漁業振興協議会	会長	小林 俊雄																																																																																																	
蒲郡市農業協同組合	理事	大村 純代																																																																																																	
蒲郡市小中学校PTA連絡協議会	会長	三浦 吉尊																																																																																																	
蒲郡市保育園父母の会連絡協議会		伊藤 恵梨子																																																																																																	
蒲郡市社会福祉協議会	会長	鶴飼 秀好																																																																																																	
がまごおり市民まちづくりセンター	代表	金子 哲三																																																																																																	
蒲郡市国際交流協会多文化共生部会		三浦 嘉子																																																																																																	
ボランティア連絡協議会	副会長	石川 たづ子																																																																																																	
蒲郡市文化協会	副会長	佐野 哲子																																																																																																	
蒲郡市スポーツ協会	副会長	吉見 千津子																																																																																																	
蒲郡市子ども会連絡協議会	顧問	小林 浩子																																																																																																	
蒲郡市	副市長	井澤 勝明																																																																																																	
名古屋大学	教授	高野 雅夫																																																																																																	
愛知工科大学	准教授	小林 直美																																																																																																	
愛知大学	教授	鄭 智允																																																																																																	
建設部道路建設課	課長	名嶋洋二郎																																																																																																	
建設部土木港湾課	次長兼課長	永島 勝彦																																																																																																	
建設部建築住宅課	課長	孕石 勝也																																																																																																	
都市開発部都市計画課	課長	鷹巣 央佳																																																																																																	
都市開発部区画整理課	次長兼課長	平野 靖行																																																																																																	
総務部交通防犯課	次長兼課長	池田 高啓																																																																																																	
総務部防災課	主幹	西浦 淳子																																																																																																	
消防本部総務課	課長	市川 貴光																																																																																																	
企画政策課	次長兼課長	牧原 英治																																																																																																	
企画政策課	係長	板倉 一博																																																																																																	
企画政策課	主事	杉浦 太律																																																																																																	
企画政策課	主事	青木 佑紀																																																																																																	

議 題	(1) 基本計画骨子案(産業分野)について (2) 基本計画骨子案 (都市基盤・安全安心分野) について						
会議資料	<table border="1" style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">資料1</td> <td>市議会議員意見まとめ</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">資料2</td> <td>審議会委員ヒアリング結果</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">資料3</td> <td>基本計画についての方向性 (2章、3章)</td> </tr> </table>	資料1	市議会議員意見まとめ	資料2	審議会委員ヒアリング結果	資料3	基本計画についての方向性 (2章、3章)
資料1	市議会議員意見まとめ						
資料2	審議会委員ヒアリング結果						
資料3	基本計画についての方向性 (2章、3章)						
会議内容	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ        コロナの関係も平常モードに戻りつつありますが、一方で産業界はこれから厳しくなります。観光などの産業や、そこで非正規で働いている方々は今、厳しい状況になると思います。困っている方々にフォーカスした行政、まちづくりができる、みんなが幸せになると思いますので、そういう観点も総合計画に含めていければと思います。        よろしく願いいたします。</p> <p>3 基本計画骨子案 (産業分野) について        (会長)        前回の積み残しとなって産業分野について、事務局がヒアリングしていただいたので、その結果を説明いただきたい。        (事務局説明) 資料2</p> <p>(会長)        追加の意見についてヒアリングさせていただいた方々、それ以外の方々もご意見があればお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業全体について話をしたが、一点はこれからの市行政の考え方はシビルミニマムという行政がやるべきことと、生活の質、幸せをつかむ立ち位置がいくつもある町という両方を目指す必要がある。人間は生きるために必要なことと、幸せになりたいという欲求があり、立ち位置を見つけるために蒲郡市での質の向上が必要である。</li> <li>・市民と会議で言うが人口8万を割るであろうが住んでいる生活者、それと600万人という蒲郡を訪ねて来る観光客がいるが、今までは消費者として観光客を見ていた。これからは、訪ねて来る人もその人には観光は生活の一部であり、生活者の視点が必要である。市民と80万人の1泊する観光客があるが、市の施策となると住んでいる人のみが対象となる。こういう時代から脱却して、外の人たちも蒲郡で生活する人であり、その人たちが生活するためにはどういうことが必要かという発想が必要である。</li> <li>・ボートレースは、競艇場に若い人の誘客も進めているが、競艇場そのものはクローズしたもののほうが良い。周りに土地があり、eスポーツ、ドローンの大会など、訪れる人が楽しめるボートパーク化が必要である。観光バスが寄れるボートパークとして競艇場を整備して、24の</li> </ul>						

競艇場に先駆けてパーク化する。そこに憩いに来た人にとっても、竹島、ラグーナテンボスが海辺で結ばれ、大塚から西浦まで海辺が歩けるまちづくりができると、子どもや孫のために良い町になる。

(会長)

観光客も市民という捉え方が新しい視点であるが、記述するとしたらどこがよいか。

- ・観光のところに記述いただいたらよい。いろいろなところに一つのフィルターとして見ていただきたい。
- ・各産業分野における支援として行政として何ができるのか検討いただきたい。蒲郡は水産高校があるが、定員が増えていない。産業界は次の担い手の育成が重要であり、水産高校の定員を増やすことは難しいのか、次の産業展開に合わせた要請として、教育についても総合計画に示すのが可能なのか。こうしたお願いをすることは可能なのか。

(会長)

人材育成で水産高校との連携は当然示すべきであり、ぜひ入れていただきたい。県の水産試験場もあるので、そこの連携も位置付けて推進すべきである。

- ・連携するのに一番良いのは水族館である。水産試験場の見せ場はない。三谷水産もいろいろなことを行っているが見せ場がない。水族館で研究の見せ場をつくってはどうか。水族館は勉強に行くわけではなく、遊びに行くので、その中で楽しく学ぶことができるとよい。蒲郡には県に2つしかない1つの試験場、1つしかない水産高校があるので、その見せ場を水族館に作り、楽しめる生涯教育の場になることがよい。定員については難しく、県全体を11の地域わけて、人口増減を見ながら学級数を埋めている。一つで増やすとどこか減らすという問題が出る。難しいことであるが、住んでいる人の要望としては進めていく必要がある。

(会長)

観光の捉え方を、そこに行くとならぶことが観光になるというように変えていく。その良い例になるので、書き込んでいただきたい。

水産高校については、出口のことは一番説得力があり、卒業生がどれぐらい蒲郡の水産業に就いているのか、現状はミスマッチがあると思う。その辺りの対策を行うことができるとよい。

- ・水産高校は昔とは変わっている。昔は船乗りをつくる、160人のうち80人は船乗りになる勉強をした。今は、愛知県の船に乗れるのかとなると募集はあるが、船に乗りたい子が少なく、水産業が衰退している。水産高校の就職は100%とよく、いろいろな資格も取れるので、国家公務員になる生徒や、国立大学にも進学している。高校の定員を増やすのは、なかなか難しいが、子どもが少なくなっている時に、水産高校を残していくことが大事である。
- ・水産高校を卒業して水産系、食品系の会社に多くの卒業生が就職している。就職率が良いので、水産高校は6.6倍になった。三谷水産に入る人が増えていることは、蒲郡の人が知って水産高校を誇るべきである。スーパープロフェッショナルスクールにも取り組んでおり、そういった取組みの見せ場が水族館にあると良い。

- ・生命の海科学館があり、水族館と連携することでもっと良い展開ができるのではないかと。子どものころから学んでいく取組みを行っている。

(会長)

そういう連携ができると良い。ほかの観点のご意見は。

- ・竹島水族館は蒲郡の観光のシンボルで、コロナの中でも多くの方々がいかれている。ただし、喫茶もない、お土産も貧弱でもったいない。もう少し観光客の滞留時間を伸ばしてほしい。そのためには何ができるのか。行政の方で土産物の場所を作り変えて、食事の場もつくるなど、資金を投入してもよいのではないかと。
- ・水族館については市とも協議をしており、竹島パークをどう再利用すべきかを含めて話をしており、水族館は指定管理で良いのかということも話している。東港については、市の中に東港推進室をつくった。竹島ルネッサンスの計画はかつてあったが、駅から周遊する全体の土地の中で、竹島エリアを再開発したらどうか。水族館も海から出て行ってオーシャンライズパークのようにすることなど。竹島のみでは集客がなく、夜は野鳥がおりライトアップができないので、行政と民間の知恵を出して海をながめながら生活を見直す、観光客も過ごすことができる場所ができると良い。

(会長)

港湾の部分でも出ていると思うので、そこで議論したい。

- ・若い人など多様な担い手の育成の中に、ボランティアや旅行者を入れていただきたい。若い人も毎日農家はできないが、ボランティアで月1回、旅のついでに1日など、土や作物に触れたい方も大勢いる。蒲郡は海も山もあり、食材も豊かである。そういう多様な担い手を受け入れることができる。大学生もお金に困っており、災害地ではコロナ禍で他県から受け入れられないので、有償の県内の大学生がボランティアで手伝っている。未来に向けて、農林水産漁業の担い手の可能性として、ボランティア、旅行者の可能性を入れていただきたい。

(会長)

今のご指摘は、ぜひ入れていただければと思う。ほかにかが。

- ・市民として生活の向上をととても願っている。子どものころから山など外で遊んでいたが、今は子ども達が海や山で遊べる環境がない。山も登れるように整備され、ウォーキング、ランニングコースを整備いただけると、家族で休日に山を歩いて、みんなで楽しむことができる。海が語るということにプラスして山が語るようなまちになったらよい。

(会長)

安全で快適で魅力あるまちづくりの分野について、事務局から説明いただきたい。

道路建設課、交通防犯課、都市計画課、建築住宅課、区画整理課  
土木港湾課、消防本部総務課、防災課説明

(会長)

まちの形をつくる、道路、市街地から防災、防犯と大事な部分であるが、どこからでもご質問や意見を。

- ・救急講習は行ってきたが、近所の子どもなどでは一度もやったことがない人がほとんどであり、学生に関しても広くAEDを一度は経験してほしい。危険なブロック塀は何か所か見かけるが、市として補助があることを進言、声掛けをしていただくとよい。地震があった時に子ども達が犠牲にならないようにお願いしたい。ブロック塀は所有者本人の意識がないので、市が声かけをしていただきたい。
- ・愛知県と2年前に避難所周辺についてブロック塀を個別に点検して、危険な箇所は個別にチラシを入れて啓発した。今後も点検したところも含めて、撤去の啓発、お願いなどを進めていきたい。
- ・通学路の整備もお願いしたい。

(会長)

ほかにご意見は。

- ・台風は経験しているが平成27年に知多半島に上陸した台風18号、潮位が3mぐらいで防潮堤が機能した。このため、若干の床下浸水程度で被害が少なく驚いた。地震、津波の経験はないので、どの程度予測してシミュレーションしたり、どう避難したり、防潮堤は機能するのか、震度6, 7に対する耐震性があるのか。

(会長)

防災の件でほかに質問があれば。

- ・南海トラフ巨大地震が来た時に、伊良湖にどれだけの津波が来たのか確実に分かれば、蒲郡に20分後ぐらいにどれぐらいの津波が来そうか分かる。東日本大震災の時には伊良湖が90センチ、蒲郡が30センチであった。パニック状態の時にいかに情報を把握できるか、市民に伝えられるかということを計画の中でシミュレーションしていただきたい。
- ・防潮堤は、何を基準に高さを決められているのか。海岸の人は特に、どれぐらいならば安全かと考えている。

(会長)

回答できればしていただきたい。

(防災課)

ハザードマップはこれから作成に入るところであり、しっかりと回答できない。パニックの中についての情報把握や伝達は、今後、防災行政無線、ラジオの活用やそれ以外の伝え方についても検討課題である。

(土木港湾課)

防潮堤の耐震性は、愛知県が港湾管理者であり、県に確認したところ三谷海岸は堤防下の地盤が比較的良く、耐震の必要性はないとのことであった。現在、高潮対策として堤防の補強工事を行っていると聞いている。

- ・防潮堤の高さは平均海面から5.5mと設計されていると聞いているが、三谷海岸は低いので約80センチかさ上げして扉も作り直すということである。
- ・海岸には防潮堤があるが、川の近くにはそれらしいものがなく、満潮になるとあと20センチで家に水が入るようなこともあると聞いている。まだ整備中なのか、若干危険箇所はあるのか。

(土木港湾課)

護岸の高さは河川によって高さはまちまちであり、場所を教えていただければ現地を確認する。

- ・緑地も作る際には緑が増えてもメンテナンスとして落ち葉を拾うなど必要になるが、その基準があるのか。植える木、道路などは、頻度が上がっているのか、強弱などがあるのか。

(会長)

市街地についてほかに意見、質問があれば。

駅の北側の整備については、どのような計画か。今は衰退しており、よそから来た人が見ても、少し玄関としては貧弱であるが、整備計画があればお話しいたきたい。

(都市計画課)

公園管理は都市公園を所管しており、都市公園は昭和50年代に整備されており老朽化しており木の枝が周辺に出るなど問題がある。公園施設長寿命化計画を今年度策定している。その中で、どういった管理をしていくのか考える。街路樹は管理者ではないが、路線によって樹種が異なっており、昭和40～50年代に主な幹線道路が作られた中で、当時の選定は早く緑化するなどであり、当時求められた機能が今ではマッチングしない場合があり、植え替えをしている場合もあり、今後も考える必要がある。

(会長)

質問の意図は手入れが行き届いていないことだと思う。

- ・手入れには限度があると思うが、たとえば外から見えない公園、見通しが悪いところなどを整備するなど強弱がついているのか。

(土木港湾課)

基本的に年に1回剪定しているが、全ての路線で行うことができないので、たとえばイチョウなど落葉樹は剪定している。職員で落ち葉を片づけたり、樹木の成長度合いによっては交通の支障になるような危険箇所があり、連絡いただければ早急に対応する。

- ・メンテナンスの手間がかからない樹木も専門家に聞けば提案してもらえる。限られたお金と人と予算の中で、アスファルトでよいところにわざわざ緑を植えなくても良い場合があり、事故などにつながる樹木も見かける。

(都市計画課)

蒲郡の北は賑わいがなく、立地適正化計画では中心拠点として位置付けている。今後、そうしていくのか中心拠点として重きを置いており、何とかしなければならぬ。現時点では、市が主体となって再開発を進める計画はない。立地適正計画で、土地利用の共同化、民間の活力の利用などによる街区の再整備という観点の方向の計画であり、それが進捗すると再開発が進むと思う。

- ・北駅の再開発はみんなが希望して、会議所のアンケートでも大きな問題として4番目に何とかしてほしいという要望がある。市が関与できないという問題ではなく、民間ができるならすでに行っている。具体的にどういう協議会をつくることや、市ができなければ会議所等が行う。市の中心市街地であり、真剣に検討することや、公共施設をもってコンパクトシティを作ろうという計画がある。たとえば、優良

建築物としての事業について、市ががんばって国、県も補助することなどを行わないと動かない。民間の計画に乗って真剣に考えないと、いつまで経ってもビルが建つのみである。タクシー乗り場の広さ、駐車場、JRの土地もあるが、エリアは良いのか決める必要がある。民間は採算があれば既に行っているが、何かポテンシャルをつくらないとやらない。地権者と周りの人たち、市民も入れて、どんなものが必要なのかを早急に考えるべきである。

- 補足すると北駅前数十年前に区画整理事業を行って、一度整備している。そこについて区画整理を行うのは二重投資となるので、再開発についてどういう手法があるのか、優良建築物の整備事業、国と県の資金が入り民間が主体となるものであるという方向もある。一民間のみでは独自にできず、市がバックアップして全体として、市道などをどうするのかなど市が入るべき要素はたくさんある。今、水面下で進んでいることについては、担当課長が入り込んで進めている。可能な部分は市が積極的に乗り出していく姿勢である。
- 図書館、託児所などいろいろな機能を行政が持っており、駅の周辺にあってもよいという意見がある。図書館も蔵書のみではなくてよい。託児所も今までと異なる機能となる可能性がある。海がながめるところにワーケーション、創業できる場があってもよい。そういう話を色々出す必要があり、ぜひ協議会をつくるべきである。会議所で協議会をつくって市が参加されてもよい。
- 空き家が目立っており、ぜひ空き家について港、竹島にかけての観光客の導線についてお金をかけずにおしゃれなカフェ、雑貨屋、お土産屋、空き家を活用したコワーキングスペース、仕事帰りに立ち寄って楽しめることがあると良い。そこに、様々な人が集う、若い人、高齢者など、そこに美味しい物、海の幸、山の幸、果物などがあれば、市民も観光客も買える。小さい機能でも良いので、それが街並みになっていくと良い。リノベーションを進めて、若い方が移り住んで整備されていくとよい。ビルを建てればよいのではなく、小さいものを積み重ねてまちをつくる例もあると思うので、多様なことを進めて市民も良くなったと思う方向を計画の中に入れ込んでもらいたい。

(会長)

空き家対策は1軒ずつを埋めていくことしかない。ぜひ取り組んでいただきたい。空き家バンクのみでは埋まらない。ぜひ、住民、地域ぐるみで進めていただきたい。

東港エリアについては、施策の柱になると思うので、適切に総合計画にも示していく必要がある。状況について説明いただきたい。

- 東港地区は蒲郡駅前から松原線という歩道整備を行ってきた部分、堤防を超えて竹島ふ頭からグラウンドゴルフ場までの一帯を大きく開発したいのが市長の政策の一つである。4月から東港地区開発推進室という部署をつくり、これから進めるというスタートラインに立った。議会から基本的な方針を決めるための委託料の承認を得たので、策定を進めるとともに、協議会を創設していく予定である。
- 蒲郡の顔をつくっていく、たとえば南仏のニースは海岸を思い出す。港、チャイナタウンなどもあるが、海岸。蒲郡と言えば思い出す場が

必要であり、竹島をもう一度シンボル化したい。そのためには、駅から東港を通じて竹島に行く、導線としての東港の役割がある。かつてポートルネッサンス構想があったが、何もできなかった。蒲郡は津波の懸念があるが、海を整備して生活するのが蒲郡の道である。海をながめて精神的な気づきを得て住む、訪ねる人も来る場所が必要である。東港の開発には期待しており、物をつくるのではなく、どういうゾーニングであってほしいのかが一番大切である。10年経つと、人を乗せるドローンが飛ぶ時代になる。水族館がオーシャンパークになったり、海の駅ができるかもしれない。かつて竹島にビリアード場などがあったが、海場ができてカフェができるかもしれない。国立公園法など制約が多いが、海辺の文学館の外のベンチは素敵で、横に公園があるのでカフェがありアートができれば来る人もいる。2030年に向けて、今やるべきことを進めることが重要である。東港の開発をきっかけにもう一度、竹島を取り戻すきっかけにするべきである。蒲郡ベンチアートプロジェクトは、1年に10プロジェクト、10年で100個、時間がかかるが提案してみんなの手で作る。作ったら、提案した人が管理する。市民が作ったものを外から来た人がそれを感じるのみでも交流である。みんなですういった町を一緒に作るまちづくり組織ができるとうい。

(事務局)

補足すると、前回、計画の全体の構成案を示した。東港の開発は多岐に渡る大きなプロジェクトであり、頭出しをして掲載していきたい。事務局案が整理できたら、皆様に提示してご議論いただきたい。

(会長)

それ以外についてご意見・ご質問は。

- ・防災について災害ボランティアがうたわれていない。防災の地域の要は自主防災会であるが、その役割、あり方についてももう少し示していただきたい。
- ・消費者保護について、中学校ではスマホで被害にあわないことの啓発はされているが、高齢化率が高いので、地域、高齢者、情報が少ない人への啓発を進めるべきである。協議会方式は多くの皆さんが入り、市外の関係人口の意見も入れるというように視点が広がっている。ぜひ、いろいろな方々の意見の取入れ方も研究して多くの参画を得ていただきたい。

(会長)

では2, 3章の検討の時間を終えたい。どう反映するのか事務局で検討いただきたい。

提案だが、審議会の期限は今年度末に策定を諮問いただいたが、熱心にご意見をいただいております、事務局も熱心でありもう少し伸ばしたい。

3月議会で承認の予定を6月議会での承認と伸ばして、議論を進めて計画策定ができればよい。皆さんには負担をかけてしまうので、ご承認いただければ。不都合がなければじっくり議論を進めたい。

(委員から反対意見なし)

もう一つ、私の方で蒲郡のまちづくりの研究としていろいろな方々と話しをしたが、活動が盛んに行われているのが分かった。残念ながら、

	<p>この場には活動している方々がおられない。そういう皆さんの抱える課題、市との協働の可能性もあるので、何とか総合計画にそういった方々の観点を入れることはできないかと思った。</p> <p>市長と話したら、意見を聞く場を持ったらよいということで話をいただいたので、委員以外の意見を聞く場を審議会の外で持ちたい。委員の皆様も参加いただいて、審議会に意見を上げていただきたい。</p> <p>以上で今日の審議会を終了する。</p> <p>4 その他 (事務局)</p> <p>次回の審議会は11月24日(火)午前10時から正午で、会場は本日と同じである。</p>
--	---